

令和5年度 学力向上指導改善プラン

志手原学校長 山本 克之

学校教育目標		4月		2～3月			
推進主体		成果となる目標		年度末評価			
学力に関する前年度の状況・経年の課題等		学力向上に向けての重点的な目標		具体的な行動目標			
		(指標となる数値等)		(成果目標達成のための具体的な手立て等)			
				(今年度の成果と来年度に向けた課題等)			
				評価			
学力 の 状 況	全国学 力・学 習状況 調査結 果の状 況 (国語、 算数・教 育に關 する質 問紙の 結果も 含む)	国語	○文章を要約する力の向上 ○根拠を明確にした論述する力の向上 ○語彙力の向上 ○話し合い活動などコミュニケーション能力を高める学習の充実	○実生活の様々な場面に応じて、論理的に書いたり、考えを伝えたり、言葉を選択して活用することができる。 ○教科書の各単元末にある言葉の力を適宜応用し、授業の中で、書いたり、話したりする機会を多く設け、習熟を図っていく。 ○登場人物の相互関係や心情・場面についての変化を読み取ったり、文章を読んで考えたことについて、交流したりする学習活動を学年の発達段階に応じ取り入れていく。 ○学校図書を選択し、学習内容だけでなく調べ学習や多読につなげ、学校図書館を活用した学習を進める。 ○対話的な学びの場を取り入れた授業構成を定着させる。(ICTの活用含む) ○あてて・自力解決の方法・ふりかえり等のあるノート指導を行う	○前段と結語など情報と情報との関係について考えることについては理解している傾向があるが「知覚・知覚」の観点から、語の内容を読めることと自分が読みたいことの中心を捉えることなど、目的や意図に応じ、語の内容を読めることと自分が読みたいことの中心を捉えることなど、「話すこと・聞くこと」領域についての学習を理解している傾向がある。 ○「話すこと・聞くこと」領域についての学習を理解している傾向がある。 ○「読むこと」領域で、文章を正確な文を捉えなければならない必要な情報を見つけることや文章を深く理解することに資して、自分の考えをまとめる力に課題が見られる。 ○図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表すことに課題が見られる。 ○漢字や文法の中身に正確なことが十分にできていない。	A	
	算数 数学	○図形(プログラミング的思考を含む)や「データの活用」の領域において、学習の定着が見られる。 ○問題形式に関わらず、全体的に正答の割合が高いが、「選択式」や「短答式」に比べ「記述式」の正答の割合が低い傾向が見られる。 ○計算だけでなく、求め方や考えを記述で示すような思考する問題の正答も高い傾向がある。 △百分率で表された二つの数量関係における割合を分数で表す問題に苦手が見られる。 △示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を概数の考え方を活用して考察することが苦手である。	○実生活の様々な場面において数学的な見方・考え方を働かせて問題解決に活かすことができる。 ○図やグラフなど資料を基に考える力の向上 ○解答の根拠(式の意味等)を説明する力の向上	○目的に応じて数、式、図、表、グラフ等を活用しつつ、根拠を基に筋道を立てて考え、問題解決をする学習を進める。また、問題解決に至る過程を説明する機会を設ける。 ○テストに 대비して、根拠を解説して直しをさせることで児童一人一人が自分の間違えを認識し、次の機会の誤答を減らすことができるようにする。	○併せて変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取ることや比例・反比例について考えられる傾向がある。 ○学習領域に関する特に「図形」の領域に苦手傾向が見られる。高さや斜辺・直角三角形について、垂直と面積の関係に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて考えることが難しい。 △百分率で表された割合について理解が難しい。 △資料からグラフ・表の傾向を読み取り、見たい値を読み取る機会を設けて「説明する」ことが苦手である。 △学習課題を考慮し、算数・グラフに自信が持てないが、根拠を基に考える事を意識させているが、まだ十分にできていない様子が見られる。	B	
	ICT機 器を効 率的に 活用し た取組 状況	○ICTを活用した授業では、動画、写真、プレゼンテーション、大型テレビなどの活用が多く見られた。中でも児童が映像で活動が楽しめることや「自分や仲間への考えをまとめる」ことが学習に効果的であると感じている。 ○1年生からiPadを活用することで、子どもたちのiPadの操作がスムーズになり、情報の収集・整理が容易であると感じている。 ○朝の会や夏休みの課題、休みの児童対応、学校行事など効果的と考えられる様々な場面でのICT活用が増えてきている。	○ICTを効果的に活用した授業づくりの推進 ○情報活用能力の向上	○キーボードの文字入力やインターネットの情報の検索、映像編集等、目的に応じてICT機器を操作できるように、発達段階を考慮しつつ低学年から授業で活用する機会を設ける。 ○学習に効果的なアプリケーションの活用など、各教科の学習課題を達成するために活用できるICT教材を検討し、児童が使えるように指導していく。	○ICT機器を活用した様々な授業実践があり、ICTを有効活用するための学習課題を設定し、取り組むことができる。 ○プログラミング教育の授業が1年～6年まで進んで行ってきた。これからのプログラミング教育の発展に繋がることが期待できる。	A	
	定期テスト、進 行テストなど による状況(各 教科)	○どの教科も基礎的な力は付いてきている。 △知識だけでなく、様々な情報や条件から思考する問題は苦手意識を持っている児童も少なくない。	○漢字の使い分けができるようになること ○思考力を問われる問題に対して、情報や条件から考える力の向上	○テキストやプリントなどの学習後に読書を通して読ませることで児童一人一人が自分の間違いを認識できるようにする。 ○算数や算数などの学習課題について、根拠を基に解決方法を考える習慣を取り組みを促す。	○問題プリントやドリル、iPadを活用した学習(キル等)、基礎的・基本的な計算や漢字の学習する機会を確保することができる。 ○国語の各単元末にある言葉の力を適宜活用した授業作りや算数の図や表、式を活用した解決方法を考えた習慣を取り組んでいる。	A	
	授業等からう かえる状況(各 教科)	○漢字の学習では、書字を丁寧に書く意識が高まっている。 ○課題に対して、粘り強く取り組むことができるようになってきている。 △漢字の習得や書字を丁寧に書くのに、困難を示す子どももいる。	○漢字の活用や丁寧な書字などのノート指導	○ノートや宿題などの字を児童が振り返る機会を設ける。	○宿題の漢字ドリルやノートなどの提出物、授業ノートを定期的に振り返るなど、手立てができてきている。	A	
	学力向 上に 関係 する 学習 習慣 ・生 活習 慣	△読書に対する興味が高いとは言えない。 △読書の習慣が高いとは言えない。 ○学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと感じている児童が多い。 ○学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。 ○学習した内容について、分かった点や良く分らなかった点を見直し、次の学習につなげようとしている。 ○生活における規範意識は高い。	○苦手な学習に対する抵抗を少なくする	○様々な教科で「自分の意見や考え」に自信をもてる学習ができる児童を増やす。 ○学習面でのきめ細やかな支援・指導で、「自分に得意なところがある」と自信をもって言うことのできる児童を増やす。	○子ども達が帰ってきた時に、それを自分でも認めることができるよう教師が声掛けをおこなう。 ○帰っている児童を助けることをするが、周りの人のために進んで動く気持ちが高い児童が中々いない。 ○算数や国語など様々な教科において、つまづきがある児童の支援に取り組む。	B	
	学校評価など のアンケート 調査による 児童・生徒 の状況	○行事(運動会・音楽会)への意欲や達成感が高い。 ○授業に対して前向きである。 ○友だちとの関係を大切に考えられている。 △学校以外で自主的に学習をすすめることは難しい。	○家庭学習の手引きの活用	○家庭学習の手引きを活用して家庭での学習をすすめていくことのできる児童を増やす。	○宿題や自主学習などの家庭での学習を定着するように取り組む。 ○各担任から適宜、子どもの学習進度、必要性に応じて宿題を出し、家庭学習の定着を促す。 △「家庭学習の手引き」は、なかなか家庭にも子ども達にも浸透しない現状がある。今年度も家庭学習の手引きを拡充し、児童・生徒への指導と家庭学習への関与が十分に受け付けられるよう、教師自身の取り組みを大切にしていくことを意識したい。	B	
	校内 研究 状況	校内研究の状況	○プログラミング的思考を育成する ○ICT機器を活用し、児童の思考を深める	○学習課題を達成するために、適切にプログラミング的思考を働かせることができる。 ○児童が目的に応じたICT機器の活用ができる。	○プログラミング的思考を主体的に働かせるために、プログラミングの学習課題(目的)を設定したり、様々な難易度の教材を活用したりする。 ○ICT機器を効果的に活用する学習課題を設定し、活用する場面を増やす。	○ICT機器を活用した様々な授業実践があり、ICTを有効活用するための学習課題を設定し、取り組むことができる。 ○プログラミング教育の授業が1年～6年まで進んで行ってきた。これからのプログラミング教育の発展に繋がることが期待できる。 ○プログラミング的思考を主体的に働かせるために、学習課題(目的)を設定したり、様々な難易度の教材を活用したりすることができた。 △個別・協働的な学習のバランスが大切なので、これらも引き続き意識しながら取り組む必要がある。	A
	校内 研修 状況	校内研修の状況	○ICT活用やプログラミング教育の在り方についての研修をする	○プログラミングやICT機器を活用した授業づくりができる。	○プログラミングやICT機器を活用する授業に取り組む。	○校内研修会でICTの活用やプログラミング教育について、学ぶ機会を確保することができ、各教員の授業作りが期待できる。	A
	家庭・ 地域等 の状況	○学校運営に協力的であり、PTA役員を中心に新しい学校や行事の在り方を考えている。	○行事での地域・保護者との連携協力 ○子ども・保護者・地域・学校にとつてよりよい行事の数の増加や開催の形の検討	○行事に主体的に取り組む、達成感を感じることができる。 ○子どもたちの日々の練習を評価していく。	○宿題量や学習進度等、行事の回数や内容の検討しながら実施できた。学校よりや研究連絡を通して、子ども達の様子や学校での取り組みについて情報発信を促してきた。来年度も、社会の情勢に合わせた形で子ども達の学びや帰りを様々な方法で応援していきたい。 ○これらも地域との繋がりが大切していきたい。	A	
家庭・ 校種 間連 携	小・中における 教科連携等 の状況	○自然学校は小野・母子・志手原、修学旅行は小野・志手原で合同実施し、上野台中学校区で連携して行事を行った。 ○上野台中学校区の6年生で中学校に向けての事前交流会を行った。	○上野台中学校区の交流を実施する。 ○中学校との連携を図っていく。	○児童・生徒の様子を交流し、校区の状況を把握するとともに児童生徒理解に努める。 ○6年生を中心の、児童の課題や実態について中学校と交流の場をもつ	○高学年を中心に、宿泊行事をメインとして中学校区での交流を図ることができた。 ○4校交流や上野台中学校の先生からの授業などの取り組みも継続して実施できている。 △他校と合同で取り組むことで、学校のねらいに沿った活動に取り組むにいい。	A	